

平成26年司法試験 合格体験記

平成25年度修了（既修コース）山下 宗一郎

1 自己紹介

9期既修の山下宗一郎と申します。私は、岡山県出身で、龍谷大学を卒業後、岡山大学法科大学院で2年間学び、幸い1度目の受験で合格することができました。

2 合格体験記

合格の方法論には様々なものがありますが、まず自戒を込めていうと、方法論は勉強の「質」を上げるものにすぎず、決して一定の勉強「量」、すなわち努力を不要とするものではないということです。私は方法論に凝りすぎる部分があったので、あえて勉強の質よりも、勉強量の重要性を指摘しておきます。具体的な方法論については、紙面の都合上、特に重要だと感じた点のみ簡潔に述べさせていただきます。

まず、高いモチベーションを維持し続けることが大切です。どうしても法曹になりたい、何が何でも合格してやる、という気持ち(動機)の強さは、おのずと日々の生活に表れてきます。

次に、心と体の健康を保つことが大切です。勉強できる環境を与えてもらっていることに感謝して、謙虚に勉強に励むことが、「心」の健康を保つコツだと思います。また、受験生(特に下宿生)はおざなりにしがちにですが、私は自分の体を作る日々の食事にはこだわっていました。

勉強面に関しては、何より合格ライン(ゴール)と自分の位置を徹底的に分析し、視覚化することが大切です。日々の勉強(講義、答練、ゼミ等)は基本的に合格ラインと自分との距離を縮めていく作業です。やみくもに勉強するのではなく、常にそのことを意識して、講義の予習復習等に取り組むと良いと思います。ゴールについては、法務省(理想)と合格者(現実)を通じて、自分の位置については、演習や試験、答練等の結果を通じて知ることができます。

3 最後に

先生方は、私の無茶な要望に何度も応えてくださいました。資料室の職員さんは、いつも笑顔で声をかけてくださいました。ふと気がつくと、資料室には受験に役立つ書籍がいち早くセレクトされていました。教務の職員さんは、裏から私たちの受験生活を支えてくださいました。そして、先輩、後輩、切磋琢磨し合った同期の仲間、本当に私の受験生活は、見えるところ、見えないところで、多くの人に支えられていました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。そして、これからの感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいと思っています。